

「業務用向け多収性品種の栽培のポイント」

1 はじめに

県では、「需要に応じた米生産による新潟米のブランド化」に向け、業務用米等多様な米づくりにより生産者所得の最大化を図るため、多収穫・コスト低減対策などの取組を支援しています。

そこで、業務用向け多収性品種の栽培管理についてご紹介します。

2 多収性品種の品種特性

業務用向け多収性品種のうち米には、早生の「ちほみのり」、「ゆきん子舞」、「つきあかり」、晩生の「あきだわら」、「北陸251号」があります。

○品種特性は下表のとおりです。

表1 多収性品種の品種特性一覧 (平成29年11月現在)

品 種 名 来 歴	出 穂 期	成 熟 期	草 型	稈 長	穂 数	一穂粒数	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	穂発芽性	障害型耐冷性	品 質	玄米の粒大	食 味
ちほみのり 奥羽382号/青系157号	7月下	8月下	偏穂数	短	やや多	中	強	強	やや強	やや易	中	上の中	やや大	上の下
ゆきん子舞 山形35号/新潟20号	7月下	8月末	中間	中	中	やや多	強	中	中	易	やや弱	上の中	中	上の下
つきあかり かばしこ/北陸200号//北陸208号	7月下	8月末	偏穂重	やや短	少	やや多	強	中	中	やや難	やや強	上の下	やや大	上の中
あきだわら ミレニシキ/イクヒカリ	8月中	9月下	偏穂重	やや短	やや少	やや多	やや強	弱	やや弱	やや難	弱	上の下	中	上の中
北陸251号 収7388/中部109号	8月中	9月下	中間型	中	やや多	やや多	やや強	中	やや強	やや難	-	上の下	やや大	上の中

表2 多収性品種の収穫時期のめやす

8月	9月			10月
下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
ちほみのり	こしいぶき			あきだわら
ゆきん子舞		コシヒカリBL		北陸251号
つきあかり				新之助

3 栽培管理のポイント

(1) 土づくりの実施

- 多収穫栽培では土壌養分が収奪されやすいので、稲わらの秋すき込みやもみ殻・堆肥・土づくり資材等を積極的に施用しましょう。
- 高収量をあげるには、十分な粒数を確保することが重要です。それに向け、根の健全な発達を促すため耕深 15cm を確実に確保しましょう。

(2) 適正な基肥量及び穂肥量の施用

- 10a 当たりの窒素施用量のめやすは、全品種とも基肥は 7kg、穂肥 1 回目は 3～4kg、穂肥 2 回目は 2～3kg です。過不足無く、地力を踏まえた量を施用しましょう。

特に、粒数確保のため、1 回目の穂肥は遅れずに施用しましょう。なお、「北陸 251 号」は葉色が淡く推移するので、穂肥量が過剰にならないよう注意しましょう。

表 3 基肥のめやす

品種名	基肥窒素 施用量 (kg/10a)
ちほみのり	7.0
ゆきん子舞	
つきあかり	
あきだわら	
北陸 251 号	

表 4 穂肥のめやす

品種名	穂肥 1 回目 (窒素)		穂肥 2 回目 (窒素)	
	施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)	施用時期 (出穂前日数)	施用量 (kg/10a)
ちほみのり	25～23 日	3～4	14 日	2～3
ゆきん子舞				
つきあかり				
あきだわら				
北陸 251 号				

(3) 適期の田植え及び適正な栽植密度の確保

- 初期の生育量を確保するため、適正な栽植密度で適期に田植えをしましょう。
早生は 5 月上旬に、晩生は 5 月中旬までに田植えをしましょう。栽植密度は、 m^2 当たり 18 株 (坪 60 株セット) にしましょう。また、「つきあかり」は茎数が少なめなので、確保しにくい地域では m^2 当たり 21 株 (坪 70 株セット) にしましょう。

表 5 田植え時期及び栽植密度・1 株苗数のめやす

品種名	田植え時期	栽植密度	1 株苗数
ちほみのり	5 月上旬	18 株/ m^2 (60 株セット)	3～4 本
ゆきん子舞			
つきあかり			
あきだわら	5 月中旬まで		
北陸 251 号			

(4) 防除の徹底

- 多収穫栽培は窒素施肥量が多いため、いもち病が多発生しやすくなります。葉いもち防除は必ず育苗箱施用により行い、穂いもち防除は、予防防除を行いましょう。
特に、「あきだわら」は、いもち病に弱いので防除を徹底しましょう。

(5) 適正な水管理の実施

- 中干しは、小ヒビが入る程度とし、出穂期1か月前までに終了しましょう。
- 中干し直後は浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行し、出穂期25日後まで飽水管理を継続しましょう。晩生の「あきだわら」、「北陸251号」は、通水最終日に十分かん水しましょう。
また、「つきあかり」は、腹白がでやすいため早期の落水はさけましょう。

(6) 適期収穫の実施

- 収穫適期の黄化粳割合は、「北陸251号」が85~90%になった頃、その他の品種は90%になった頃です。積算温度で、早生950~1,000℃、晩生1,050~1,100℃がめやすです。

表6 収穫適期の積算温度

品種名	黄化粳割合(%)	積算温度(℃)
ちほみのり	90	950~1,000
ゆきん子舞		
つきあかり		
あきだわら	85~90	1,050~1,100
北陸251号		

4 おわりに

業務用向けの多収性品種を栽培する皆さんが、多収栽培のポイントをしっかりと実践することにより、高収量を確保して最大の収入をあげて頂くことを期待します。

【経営普及課 農業革新支援担当 石山 誠一】